

山形大医学部

小児科学講座

(山形市)

中村和幸 先生



イラスト・安藤静

日常的にたんの吸引などが必要な医療的ケア児・者や、その家族への支援の動きが県内でも広がっています。昨年県内に設置された支援センターの取り組みについて、山形大医学部小児科学講座（山形市）の中村和幸先生が教えてください。

医療的ケア児・者 家族ら支援

出張相談や研修会 主治医と同行訪問

医療的ケア児・者とは、人工呼吸器の管理やたんの吸引、チューブで胃に栄養を送る経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な方々のことです。全国では2万人を超えて増加傾向にあり、県障がい福祉課の調査では、県内には165人の医療的ケア児がいます。

ります。

2021年9月に医療的ケア児とその家族の支援法が施行され、22年7月には「山形県医療的ケア児等支援センター」が県からの委託で山形大医学部付属病院内に設置されました。

当センターでは、そうした悩みや不安に応えるため、電話やメール、来所での相談に限らず、県内の園や学校、事業所への訪問、地域で行われる会議への参加など「出向支援（アウトリーチ）」にも取り組んでいます。実際に、行政や園、学校と連携することで、地域で医療的ケア児の通園・通学が可能になった事例があります。

病院の主治医が訪問診療に同行する「同行訪問事業」にも取り組み、推進を図っています。大学病院は医療の中核を担っており、院外の活動においても継続して医療的ケア児・者の生活を支援していきます。

医療的ケア児・者を抱えるご家族の負担は大変大きく、休息が取れないなど、たくさんの課題があります。

また、医療的ケア児・者の支援者に対して、基本的な手技や緊急時対応の研修会を行っており、22年度は県内各地で14回開催し、134人が参加しました。

多様な人々が地域社会で暮らすことができる仕組みづくりは、特定の人のためだけではない側面があります。地域の園や学校で、多様な子どもたちが一緒に過ごすのが当たり前になることは、社会を変える一歩となる可能性があります。このような取り組みが始まっていることを、ぜひ県民の皆様

他にも通院の負担軽減のため、

に広く知っていただけたらと思います。

読売新聞山形支局では、身近な医療や病気に関する質問を募集しています。メール(yamagata@yomiuri.com)か、ファクス(023・624・0730)でお寄せください。お送りいただいた質問を参考に、記事を構成することがあります。